

あ と が き

評価済核データライブラリーJENDL がはじめて世に出たのは、1977 年のことである。ENDF/B-IV のデータを部分的に採用してはいたが、可能な限り日本独自の評価結果を 72 核種に対して与えた核データライブラリーであった。それから数えると昨年は JENDL 30 周年の年であった。その年の暮れに JENDL 高エネルギーファイル 2007 (JENDL/HE-2007) が公開され、JENDL アクチノイドファイル 2008 (JENDL/AC-2008) も間もなく公開されようとしている。新しい JENDL の内容を見ると、核種数が増加し、データの質も向上し、30 年間の努力の成果は確実に見えている。

しかし、30 年がたっても、重要な核種でさえこれで十分という状況に達していないのも事実である。U-235 の共鳴パラメータをとってみても、SAMMY という優れたデータ解析コードの出現で、実験データの解析が進み、精度の良いパラメータが得られてはいるが、よく見ると、共鳴パラメータの解析に使用する中性子捕獲断面積の測定値は古いものしかなく、数百 eV 以上の共鳴領域では新しいデータの測定・解析・検討が望まれる。

原子力機構核データ評価研究グループが掲げている核データ整備の予定を見ると、2 年後には JENDL-4 が公開されることになっている。JENDL-4 では今よりもさらに確かな核データが提供されるであろう。しかし、それで満足して歩を止めることはできない。JENDL-4 は、遠くにある目標への通過点でしかないことは確かである。

このような「核データ」に関する話題や成果を『核データニュース』が的確に伝えていければと願っている。

中川 庸雄

nakagawa.tsuneco@jaea.go.jp

核データニュース編集委員会

中川庸雄（委員長、原子力機構）、井頭政之（東工大）、石川 眞（原子力機構）、
岩本 修（原子力機構）、山野直樹（東工大）、吉田 正（武蔵工大）、渡辺幸信（九大）
[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子